
おおきなウドの大木【息抜き日記ぱ～とワン】

ウドの大木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おおきなウドの大木【息抜き日記ぱくとワン】

【Nコード】

N0128C

【作者名】

ウドの大木

【あらすじ】

タイトルの如くウドの大木の息抜き日記です。別にネタギレの苦し紛れの荒業ではありません。信じてくださいそれではどうぞ

(前書き)

2007年5月17日

思い付きで生まれた一歩先から闇の初期設定の公開です

ハイ、ソレデハたいとる由来からイキマシヨウ

まあ何ですか、タイトルは割りと検討がつく人もいるんじゃないですかね？

コトワザに近いのあるでしょ？ほら、アレですよアレ

一寸先から闇

タイトルはモロにこの辺から来てます。ま、霞君の人生ソノモノですよ

「オラッ！」

ぐはあっ！な、何をする霞君。事実をねじ曲げる気が！

「黙れ！そう仕組んでるのは貴様だ駄作者」

まあそうなんだけどさ………ドンマイ

「再びオラッ！さっさと紹介に移れ！」

ぬう、ならやるか

それじゃ野崎霞君

彼は元から読書好きの女顔でした。ただし当初の予定では晴れのち行方不明のキャラでして、何をどうなったか一歩先から闇の主人公になった訳なのです

「じゃあ当初一歩先から闇の主人公ってどんな名前だったんだ？」

………慎

「うわああ………」

これ割りと冗談抜きだから。最初はマジで慎にしようかな〜みたいな感じだったのよね

そんでもって当初の予定では夕月と雫は頭の中にはいなかったんだよね。まさに偶然の産物な分けた

「ふうん。で、今後の予定はどうなの？」

そりゃ〜ネタバレ嫌いだから言わないよ。ただ読者の予想を上回りたいのは確かかな

「ま、頑張りなよ。それじゃ深娜でも呼んでくるか。ほんじゃな〜」

と、言うわけで

「・・・何よ」

大川深娜さんで（無言のボディーブロー）ブホッ！な、何をしゃがるんでありますか？

「不愉快だったからよ」

年中そうじゃないっすか。八つ当たりもいいとこだ（再びボディーブロー）悶絶する作者

はい、それじゃ真面目にやらせて頂きます

まず、大川深娜と言う名前は最初『大河美菜』だったんですよ

それがちよつと変換ミスって今の名前になったんですよ。なんかシツクリ来たからそのままなんですよ〜

ついでに言えば最初の深娜は割と終盤まで無表情で冷徹の予定だったんですよ

それがやつぱ気に入って今みたいにやわらか〜くなりました

「なんか嫌悪があるわね。殴っていい？」

無視します。

それから深娜はハーフだと明記してましたが父親がアメリカ人で母は京都出身です

もうダイナマイトなアメリカンボディと純京美人をかね揃えたパーフェクトガールなのです

え〜っと、スリーサイズは上から

(断続的な形容しがたい肉打つ音と時折漏れる苦悶の叫び)

あれ？俺何してたっけ？なんか無茶苦茶体痛いぞ

「あ、やっと起きた」

おや？加弥嬢ではないですか？何勝手に菓子を食べてるんですかこのお子様は

「いいじゃん」

もうツツコまない

それじゃ改めて大早加弥。最初は大早じゃなくて大町でした

執筆中に余りにも違和感を感じたので今現在の大早になりました

加弥に関しては割と変更が少ないんですよ。まあ全般がスタイル云々ですから

大丈夫。加弥はロリでは御座いません

(形容しがたい肉打つ音と時折漏れる苦悶の叫び)

はっ！何か前にも同じことがあった気が………デジャブ！
「何、まだ殴られ足りない？それじゃ後2〜30発程………逝つとく？」

ヤダ！この子怖い子！

もう無理に進みます

これは割と最初の辺りで考えてましたが霞のファーストキスを奪うのは加弥でした

もう寝てる霞に忍び寄り強引且つ大胆に！みたいなのが頭の中になりました

「………」

ついでにちゃっかり布団に忍び込んで一緒に熟睡してしまうのでした。もう深娜は激怒激怒で波瀾万丈！になってたかもしれないのです
「………ねえ………ウド」

おいおい勘違いされそうな名で呼ぶなよ。せめて大木が作者と言ってくれ

「………死んで」

(形容しがたい肉の潰れる音とマジで人としてオカシイ骨とか関節の悲鳴が部屋に木霊する)

「ちょっとあやう。仕事中に寝たら駄目でしょ」

「ふえ……ああ！す、すみませんライノさん」

「まったく……新人だから少しはしやんとしなさい」

「はい……すみませんでした。以後気を付けます」

「よろしい。では早速紅茶プリーズ」

「ううう、悪女」

クワツ！

「な、何でもないです」

あやと呼ばれた女性は急いで給湯室に逃げ込んだ

まったくライノ先輩は人使いが荒いな

そりゃー私は新人だし絶対勝てる相手じゃないですけど少しは優しくして欲しいです

ライノ先輩って確か今年で22って言ったから私より2つ上なだ

けなのに

延々と愚痴るあやと呼ばれた女性は背後の物音にビクツと飛び跳ね、近くの椅子に脛を思いつきり強打してしゃがんで震えている

「何をやっておる」

「ふ、副隊長……驚かさないで下さいよ……。気配を放つて下さい」

「失礼な。我はいつも通りだ」

しゃがんだまま副隊長を怨めしげに見ると、副隊長と眼が合う

「彩。そろそろ集会が始まる。茶の用意を頼む」

「分かりました。今日の隊長は激甘コーヒーでいいんですよ」

「ああ。勤めの後はアレしか飲まぬからな。急げよ」

そう言つて副隊長は給湯室を出ていった

彩は小さい副隊長の背を見送つてから慌ててお茶の用意を始めた

ドンガラガツシャーン

「きゃあああああ！」

彩は割とドシでした

はっ！今まで何が起きてた！何が起きてた！

「あの～・・・作者さん。大丈夫ですか？」
ん？洗夜じゃん俺何か言ってた？

「はい、なんか彩とか副隊長さんとかライノさんとか」

・・・・・・・・・・は！俺の新作ネタじゃん！何言っちゃってんのこの
駄作者

「何してるんですか作者さん。ここ二階ですけど下が坂だから8m
近くあるんですから」

離してくれ洗夜、なんか作者として生きる術を失った気分なの
「この仕事終わってからでも間に合いますわよ」

君何気に酷いこと言うね

じゃあない頑張ろ

先塚洗夜さん。まあ彼女のちょっと内気な正確と一途な想いはこれ
つぼっちも変わってません

ただちよつと違ったのが洗夜さんはミスティアスガールになる予定
だつのです。それがやっぱりかわっちゃいました。でもやっぱりお
気に入りなんですよ

「あゝ。私の名前って最初はどんなのですか？」

先塚洗夜

「え？」

先塚洗夜。もうさいしょっからこれです。ちなみに親父さんはプロのカメラマンです

そして母親は超天然です。二人とも超親馬鹿です

そしてそんな二人の愛の結晶たる洗夜さんの最近の楽しみは修学旅行やその他のイベントで撮影し続けた霞の写真+ビデオ鑑賞です

「さ！作者さん、何言ってるんですか！それは秘密なんですよ！」
うんうん秘密だね

そんな約束クソくらえ

「作者が自棄になった！お願いだから元に戻って下さいよ」
「フンだフンだ。最近なんて寝る前に霞の写真にキ
「キヤアアアア。だめええええええ」

パリッ

「よつ、彩ちゆん。お茶サンキユ」

「はいダルカさん。湯飲みは私の手の中です。擦らないで下さい湯飲みひっくり返しますよ警察に変態容疑で突き出しますよ四人の人と付き合ってるってバラしますよ」

ダルカさんはその場で膝を抱え泣き出した
無視です

「浅野。ダルカが正直ウザったくても茶を置いて蹴り飛ばす位にしておけよ。外傷なら直ぐに治る」

「だから駄目なんですよ。直ぐに調子に乗るんですから。宝天さんも甘やかすのは良くないと思います」

これは手厳しいと苦笑いをする宝天と呼ばれた男は泣いてるダルカを取り合えず蹴っておいた

すると背後の扉が勢い良く開き一人の青年が歩いてくる
青年は上着を脱ぎ椅子に被せ深い溜め息と共に腰を降ろす

「お疲れ様です隊長。コーヒーをどうぞ」
無言で受け取り一口飲む。それから二度目の溜め息を吐きカップを置く

「オルメント卿に呼び出された。文句ばかりで頭に来たから殴ってやった。全治二ヶ月の軽傷だ」

「隊長。一応奴は我等の代表取締の様な者だ。自重されよ」

「副隊長涼夜。それはお主の本心か？」

「建前だ。後で面倒になっても言い訳になる」

「そうか。なら集会を始める。ダルカ、取り合えず席に座れ」

あれ？ここ何処？

「おう作者。血だるまで腕が変な方に曲がってたが大丈夫か？」

ここはフィクションの世界だ。どうとでもなる

「まあ俺も似た様な事しょっちゅうあるからな」

と言うことで藤坂慎です

まあ彼は霞の時にチヨビツと出てたけど最初の主人公でした

それが今ではマゾ気質のチビ変態でキモイの代名詞です

正直死ね

「ボロクソに言い過ぎだろ！酷いぞ作者」

気安く呼ぶな

ふてくされてる慎は無視して進みます

実は慎にはモデルが存在します。そのモデルは作者の作家仲間です

大丈夫。彼はドキドキマゾ気質の変態野郎では御座いません。完全なるSです

話が脱線したので戻します。慎の家は自営業の八百屋です
名前は『八百屋』はっぴゃくやと読みましょう

そしてなんと慎には二つ下の妹がいます

この辺は本編の次話で出ますので今は書きませんよ？

「あゝ作者さん？」

何ゴミ虫

「いや、もういいや」

さて、今回はここまでです。また機会があればパート2が有ります
ので気長にお待ちください

それではまた今度御会いしましょう。バイバイキーン

(後書き)

本文の何処かに初期設定で無いものがあります。どれでしょう？

- 1 夕月と雫
- 2 加弥がファーストキス
- 3 慎の妹

心の中で激しく叫ぼう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0128c/>

おおきなウドの大木【息抜き日記ぱ～とワン】

2011年1月16日00時41分発行